

2011 年度 北アルプスパーティ報告書



メンバー

C.L 今野 智望
太田 宇則
古谷 拓朗
今村 涼
田邊 真輝

行動記録

8月5日(金) アプローチ1日目

弘前駅 (/8:00) → 大館駅 (8:41/10:03) → 秋田駅 (11:48/12:12) → 酒田駅 (13:56/14:29) → 新津駅 (18:32/18:54) → 長岡駅 (19:50/20:18) → 柏崎駅 (21:00)

いよいよ出発の日、結構朝も早いというのに幾人もの先輩が見送りに来て下さる。弘前駅で集合写真を撮ったあと先輩方に見送られながら出発する。見送りに来て下さった方々ありがとうございました。その後電車に揺られること40分、手紙を読んだり景色を見たりしているうちに大館駅に到着。上り線が少ないためにおよそ1時間半の待ち時間が出来たため、各々朝食を調達して食べる。この日の大館は雲一つ無い快晴で、うだるような暑さの中クーラーの効いた駅舎から出る気にはなれず、朝食を調達したあとはひたすらベンチに座ってうだうだと過ごす。ここから1時間半ほど電車に揺られ、秋田駅へ。ここでは25分という何とも微妙な待ち時間のため、特にホームの外に出ることもなくおとなしく次の電車を待つ。秋田駅周辺には結構な数の大型店があるため残念だ。ここから電車で約2時間、酒田駅に到着する。ここでも待ち時間は30分ほどしかなかったのだが、昼を過ぎたということもあり皆かなり空腹だったので、昼食の買い出しに向かうはずだったが、ここでは1年生2人が全員分の買い出しに行ってくれた。感謝。蛇足だが、地下通路を通って駅の裏側に抜けると安くて大盛りの弁当屋がある(帰りの行程で発見した)。(が、30分で買い出しに行けるかは微妙なところかもしれない。)その後の新津駅・長岡駅では待ち時間が20分少々と短かったためトイレに行くぐらいが精々で、若干の駆け足で乗換列車に乗り込む事もあった。柏崎駅に到着したのは夜21時で皆空腹だったので、駅前をふらつき商店街の中に見つけた中華料理屋で夕食を取ることにする。結構な大盛りで、最高とまでは行かずとも十分に美味しかった。その後宿泊場所を見つけるべく、携帯の『ネットカフェナビ』なるサイトを参考に周囲をうろつくが、どの店舗も潰れてしまったらしく予想以上に時間がかかった。結局駅の裏手、国道8号線沿いに『自由空間 新潟柏崎店』を見つけ、そこに泊まることとなった。各自受付を済ませてこの日は解散した。

8月6日(土) アプローチ2日目～買い出し

柏崎駅 (/7:48) → 直江津駅 (8:29/9:48) → 糸魚川駅 (10:26/10:56) → 南小谷駅 (11:48/12:06) → 白馬駅 (12:23/13:26) → 白馬アルプスオートキャンプ場 (13:35)

前日宿泊した自由空間を朝6時頃出発し、隣接して立っていたすき家にて朝食を取る。実に商売上手である。更にこれも隣接して立っていたセブンイレブンにて昼食の買い出しも済ませる。こちらも商売上手である。そうこうして柏崎駅に到着したのは朝7時を若干廻った頃であった。30分ほど電車を待ち、次の乗り換え地である直江津駅へ。ネットカフェで夜更かしをしたのか、この日の電車の中ではほとんどのメンバーが終始船を漕いでいた。直江津駅では1時間ほどの待ち時間があつた。メンバーのうち数人は周囲を探索しに出かけたが、この日も酷暑であったので残ったメンバーは駅舎でうつらうつらと過ごす。その

後は特筆するようなこともなく順調に乗り継いでいき、無事に白馬駅まで到着する。昼食は朝に訪れたセブンイレブンで既にお買い出し済みだったので、列車の中や駅など、メンバーそれぞれが思い思いのタイミングで食べていた。ちなみに、ここまで毎年恒例のメンバーが酒に溺れている描写が一切無いことを疑問に思った方もいらっしゃるかもしれない。それもそのはず、今回の差し入れには酒瓶が1本しかなかったためだ。おかげでだいぶ楽なアプローチではあったが、少し寂しいような気もした。白馬駅に着いて最初に、本日の宿泊地である『白馬アルプスオートキャンプ場』行きバスの停留所の位置を確認し、駅前の坂（県道322号線）を少し登ったところにある『スーパーなかじま』にて、行動食やC.L プレゼンツなどの買い出しをする。案外品揃えが良かった。その後駅に戻り、サブザック（観光用）を持ってきていた古谷は駅向かって右手の白馬村観光案内所にサブザックを預けに行く。因みに一泊あたり300円で、先払いではあるがエスケープ等で引き取り日が早まった場合には返金してくれるそうだ。その後予定通りバスに乗り込み、10分ほどでキャンプ場に到着する。管理人棟で料金を支払い、テントを張り終えるや否や突然の豪雨。テントには事前に防水処理を施していたものの、芝生が湿地帯のようになるほどの降水量にあえなく浸水を許してしまう。その後雨も一段落したので、夕食を作り食べる。この日のメニューはレトルトの牛丼だった。ん、そういえばこの日は朝も牛丼を食べている。予想外のメニューの被りが起きたが、美味しかったのでそれも又良し。腹もふくれたところで、テントは水浸しだったが翌日から始まる山行に向けて早めに就寝した。

8月7日(日) 白馬アルプスオートキャンプ場～白馬大池指定キャンプ場

起床(4:00) → 白馬アルプスオートキャンプ場(5:40) → 倉下の湯バス停(5:43/6:08) → 榎池高原バス停(6:27/6:38) → ロープウェー榎池高原駅(6:47) → [榎の森駅 → 榎大門駅] → 自然園駅(7:22) → 榎池ビジターセンター(7:43/8:17) → 天狗原(9:45/10:05) → 風吹大池分岐(10:09 通過) → 乗鞍岳山頂(11:54 通過) → 白馬大池指定キャンプ場(13:13) → 消灯(21:00)

この日は朝4時に起床する。天気は薄曇りだったが、所々に晴れ間も見えたので早めに朝の支度を済ませてキャンプ場を出発する。装備係の二人は、テントが水を吸って初日から随分と重たそうだった。バス停に着いた頃には太陽が顔を出し、程無く来たバスに乗り込みロープウェー乗り場に到着した頃には、少々汗ばむくらいの陽気だった。ロープウェーは20分間隔で運行していたので、特に待ち時間を気にすることなくスムーズに移動でき、30分ほどで一気に高度2000m近くの榎池自然園に到着した。本来はここで体を慣らすためにしばらく観光してから山行を開始する予定だったが、ビジターセンターの係員さんから「それほど慣らさなくても酷い高度障害に陥ることは少ない」「午後に一雨来そうなので早めに行動した方がよい」とのアドバイスを受けたので、10分ほど準備運動やトイレを済ませたあとすぐ出発する。登山道はよく整備されてはいたが前日の豪雨の影響が色濃く残っており、ぬかるみや水たまりが多々見られた。ぬかるみに足を取られ思うように進まない上に岩場や急騰が多く、メンバーの体力の消耗が激しかったため、細かいスパンで休憩を挟みながら登っていった。しかし急騰が多い分、眼下に広がる絶景を木立の間隙から垣間見る機会は多く、ここに来て良かったという実感を感じながら充実した気持ちで登っ

ていくことが出来た。しばらくすると岩場がかなり増え、今年度の T.W で岩場の練習が十分に出来なかった 1 年生は非常に辛そうだったので、上級生がサポートに廻りつつペースを控えめにして登っていった。途中で何度も 30 人を超えるような団体客とすれ違い、こちらのザックを見せる度に驚かれたり感心されたりした。天狗原を過ぎた辺りからは珍しい高山植物が増え始め、カメラを持っているメンバーは興奮して何度も写真を取りに行った。この辺りから周囲にガスが出始め、最も酷いときでは視界は 200m ほどになった。しかし、よく整備された登山道であったため道を見失うといったことは起きず、無事に乗鞍岳山頂に到達することが出来た（因みに、ガスが強くてどの地点が乗鞍岳の山頂だったか厳密には分からなかった）。途中の大雪渓では、新人山行が今年度の変則的な授業により遅れたために雪道の経験がない 1 年生に、登り方を教えながらゆっくりと登っていった。乗鞍岳を過ぎると道が下りとなり、ガスもやや晴れたため体力的には楽になったが、大きな岩で構成された岩場が増えて足下に注意する場面が増えたので、精神的にはより辛い道となった。しかし、途中で休憩を取れそうな場所は見受けられなかったため、そのままキャンプ場までワンピッチで一気に下っていった。少し肌寒いぐらいの気温だったが、キャンプ場に着いたときにはじっとりと汗をかいていた。キャンプ場についてややしばらくすると再び豪雨に襲われ、テントは前日に続き再び水浸しになる。天気図を取ったり夕食の用意をしたりなどしてしばらく過ごしていると、田邊が頭痛を訴えた。しかし手違いで医療パックに頭痛薬が入っていなかったため山荘に助けを求める。偶然にも山岳警備隊の方と医大の方が山荘に宿泊されており、頭痛薬を頂いて数点のアドバイスを受ける。田邊は軽い高度障害だったようで、頭痛が治るまでは寝かせてはいけないということだったので皆でトランプなどして時間を潰した後、田邊が小康状態となった頃を見計らって消灯した。

8月8日(月) エスケープ

起床(5:00) → 白馬大池指定キャンプ場(/8:14) → 天狗原(10:23/10:46) → 銀嶺水(11:07/11:20) → ゴンドラ自然園駅(11:59) —[梅大門駅→梅の森駅]→ 梅池高原駅(13:32)

田邊の体調が不安だったため、当初の予定よりも起床時間を 1 時間遅らせた。朝食を食べ、田邊に体調を聞いたところ「これ以上高度が上がるのは厳しい」とのことだったため、エスケープを決定する。キャンプ場を出発しようとして準備をしていると、山荘の職員さんから連絡が。曰く、「8 時頃からヘリコプターが頭上を通るので突風に注意して下さい」とのことだった。これは下山してから知ったのだが、この日、白馬岳で行方不明者が出たそうで、僕たちが見たものはその捜索のヘリコプターだったようだ。結局、その方は後日遺体で発見されたそうだが、これを聞いて改めて自分たちが命を落としかねない場所に来ているんだと言うことを実感した。亡くなった方のご冥福をお祈りします。その後ヘリコプターが通り過ぎるのを待って下山を開始し、せっかくなので白馬大池の縁でおそろいを持って記念撮影をした。乗鞍岳までの帰り道は一度通った道なので精神的には楽だったが、岩が大きい上に結構な急騰なので体力はかなり削られた。なんとか山頂にたどり着くとこの日の乗鞍岳は快晴で、見渡す限り岩と低木だけという見事な景色を思う存分堪能することが出来た。山頂で写真を撮っていた登山客の方から「この辺はライチョウが偶に迷い出て

くる」とうかがったため意気揚々と辺りを見回しながら進んだが、結局ライチョウと出会うことは出来なかった。乗鞍岳から天狗原までは段差の激しい岩場が連続したため、天狗原に着いた頃にはメンバーの足にかなりの疲労が溜まっていた。そのため大休止をとり、周囲を観光して体を休めた。ここは高高度の湿地帯ということもあり、下界ではまず見られないような植物が多数生息していたので非常に良い写真が撮れた。その後再び下山を開始し、登山口まであと僅かという辺りにさしかかった際、行きには気付かなかった『銀嶺水』という水場があることに気付き、喉を潤す事にする。湧き出た水は非常に冷たく、疲れていた体に活力を与えてくれた。この日は時々晴れ間の覗く曇りと終始天気恵まれ、何事もなく無事下山してくることが出来た。田邊の高度障害は高度が下がるにつれ快方に向かい、下山する頃には元の体調に戻っていた。下山後にビジターセンター売店で食べたソフトクリームは美味しかった。その後ロープウェイで下界へと戻り、下山後の宿泊予定地であった民宿『エスポワール みさわ』に連絡を取ると、予定を繰り上げても問題ないとのことだったのでゆっくりと体を休める事が出来た。皆さんお疲れ様でした。補足だが、ここの民宿「〇〇大学の△△部なんですけど、掃除などするので宿に泊めて頂けませんか」等と頼み込むと、無料で食事と大部屋を提供して頂けるそうだ。次年度以降に白馬岳に挑むパーティがあれば是非試してみてもは。

残りは出来次第順次掲載します！